

## &lt;総括&gt;

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間 90分
昨年度は評論1題、隨筆1題という構成だったが、今年度は評論2題となり、一昨年度までの傾向に戻ったといえる。現代社会が直面している問題などを取り上げた文章が用いられているのも例年どおり。(一)は本文がかなり長いが、(二)は短くなっているので、全体としてのボリュームもさほど変わっていない。昨年度は漢字の書き取り以外はすべてマーク式の問題だったが、今年は抜き出し問題が出題されている。		

## &lt;本文分析&gt;

大問番号	(一)	(二)
出 典 (作者)	富原眞弓『シモーヌ・ヴェイユ』(岩波書店 2002年、岩波現代文庫 2024年)より、第八章「政治理論と神秘神学——ロンドン（一九四二—四三年）4 思考の自由」の全文。	岡野八代『ケアの倫理——フェミニズムの政治思想』(岩波新書 2024年)より、「序章 ケアの必要に溢れる社会で」中の二箇所を繋げて使用。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章が入試に出題されるのは稀である。	この著者の文章は近年の入試で頻出している。河合塾 2024年度「高3早大現代文」2学期第8講と、同筆者・同趣旨の文章である。
分 量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約5700字。昨年より約700字増。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2100字。昨年より約600字減。
難 易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易・変化なし・やや難化・難化)

## &lt;大問分析&gt;

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
(一)	哲学思想	問一	マーク	やや難	空欄に入る語の組み合わせを選択。本文を最終段落まで読み、Iに「非人格的」が入ることを確認すること。
		問二	マーク	標準	傍線部内容説明。第3段落までの内容を踏まえ、「一概にいえない」という表現に対応したものを選ぶ。
		問三	マーク	難	傍線部理由説明。解答例は大学公表の解答のハとしたが、「葛藤」が空欄III直前の「勝つのは……情念である」などにそぐわないと、イも誤りとは言い難い。
		問四	マーク	標準	空欄補充。「情念」が「巨獣」に喩えられていることを読み取る。
		問五	マーク	やや難	脱落文の挿入。脱落文は「知性」が「制約」されるという話題の直後にくるが、ハにもニにも入りうる。
		問六	記述	難	抜き出し問題。設問に「『巨獣の道徳』以外に」とあるので、「集団的情念」は正解にならない。解答例は大学公表の解答の「公認の教養」としたが、最終段落の内容を裏返して考えれば「自己の存続」も正解になりうる。また、設問の指示は「語」となっているにもかかわらず正解が一単語ではない。不適切な出題といえる。
(二)	社会論	問七	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部に対応している選択肢を選ぶ。
		問八	マーク	やや難	脱落文の挿入。「こうしたケアとケア関係が維持される」に対応する内容が直前に述べられている箇所を選ぶ。「こうした」は〔ハ〕直前の二文の内容を指している。
		問九	マーク	やや易	空欄補充。直前の「極度の疲労」の延長線上にある語を選ぶ。
		問十	マーク	難	傍線部内容説明。解答例は大学公表の解答のハとしたが、「個別のケアが行われている文脈や歴史」の説明だと考えると、二も誤りとは言い難い。
		問十一	マーク	標準	空欄補充。「社会」の中に「家庭」と「就労」の領域がありそれが分離されている、という本文の論旨を押さえる。
		問十二	マーク	難	傍線部に関する説明。解答例は大学公表の解答のニとしたが、傍線部の「状況」を説明していると考えられるものを消去法で選ぶことになると、イも誤りとは言い難い。
		問十三	マーク	標準	空欄補充。口とやや迷うが、直前の「無償」「安価に抑えられている」などから判断する。
		問十四	マーク	やや難	傍線部内容説明。間違った内容の書かれていない選択肢を、消去法で選ぶしかない。
		問十五	マーク	標準	内容合致・趣旨判定問題。本文全体の内容が包括的に説明されている選択肢を選ぶ。
		問十六	記述	標準	漢字の書き取り。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

難解な評論を用いた問題を中心に、演習を積んでおくとよい。本文の全体的な構造、および空欄や傍線部の前後の文脈を正確に把握するとともに、それらを通して理解したことを踏まえて選択肢を比較検討する練習を怠らないようにしよう。

# 国語 (古文)

早稲田大学 文学部 3/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 90分

古文の学力を広範囲にわたって問うオーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	(三)	
出 典 (作者)	宮部万女『相生の言葉』	
頻出度合 ・的中等	稀。	
分 量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	約1070字。昨年より約20字減。
難 易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	歌集	問十七	マーク	標準	語の空欄補充 (月の名として適切なものを選ぶ)。
		問十八	マーク	やや易	文の意味 (「ひとりごちして」に注目)。
		1	マーク	やや易	文の意味 (ここでの「うとく」の語義に注意)。
		3	記述	やや易	和歌の空欄補充 (和歌中の空欄に入る適切な語を本文中から抜き出す)。
		問十九	マーク	やや難	和歌の内容把握。
		問二十	記述	易	文法 (文法的な原則と相違する活用語を見出し、正しい活用形に直す。係り結びに注意)。
		問二十一	マーク	標準	内容合致。
		問二十二	マーク	標準	文学史 (本文より前に成立した江戸時代の作品を選ぶ)。
		問二十三	マーク	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文の知識を広く身につけ、文章を細部まで丁寧に読み進めていく力を養成しておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

## &lt;総括&gt;

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 90分

昨年度は2つの文章が取り上げられていたが、今年度は長めの文章1つであった。また、日本漢文からの出題であった。設問は5題で昨年度より1題少くなり、記述問題は1題のみであった。設問は内容説明の問題、書き下しの問題、理由説明の問題、趣旨に関わる問題とオーソドックスであったが、解釈の問題が出題されず、抜き出しの問題が出題された。例年、設問に関わる箇所は白文もしくは返り点のみ施されていることが多いが、今年度は1箇所のみが白文で出題された。

## &lt;本文分析&gt;

大問番号	(四)	
出 典 (作者)	蒲生重章『斐亭文鈔』	
頻出度合 ・的中等	稀。	
分 量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）	404字。昨年より113字増。
難 易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）	

## &lt;大問分析&gt;

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
(四)	史論	問二十四 問二十五 問二十六 問二十七 問二十八	マーク マーク マーク 記述 マーク	標準 易 やや易 易 やや難	内容説明の問題。第一段落、第二段落の主張を捉える。 書き下し文の問題。否定形「不敢」に着目する。 理由説明の問題。傍線部を含む一文が抑揚形になっていることに注意する。 抜き出しの問題。筆者の議論の対象となっている耶律楚材の言葉を抜き出す。 内容と合致しないものを選ぶ問題。該当箇所を的確に捉え、選択肢の正誤を丁寧に検討する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

漢文の基礎知識を徹底的に身につけ、緻密な読解力を養成する必要があるのはいうまでもないが、設問に関わる部分の訓点が省かれる傾向があるので、白文対策も必要である。主語・述語の関係など漢文の基本構造を読み取り、白文に返り点・送り仮名を付ける練習をしておきたい。また、漢詩に対しても十分準備をしておくこと。